

守り 創り 育てよう
ふるさと島根の景観

第15回 しまね景観賞



島根県

●表紙のご紹介



日本風景選集より

「出雲 安来清水」

大正15(1926)年 多色木版・紙
(島根県立美術館収蔵)

安来清水寺は、用明天皇2(587)年、尊隆上人によって開かれた天台宗の古刹。本作は川瀬巴水が日本各地を取材し、名所風景をあらわした《日本風景選集》(36図)のうちのひとつ。雪の舞い散る真冬の清水寺を主題とし、画面からは凍てつくような寒さと、山陰随一の三重塔の凜とした美しさが伝わる。巴水は風景を描写する際、その場所がもっとも魅力的にみえる季節や時間帯を選んだ。巴水の目の奥には、白い雪に映える塔の赤が色濃く印象に残ったことが伺える。

川瀬巴水(かわせ はすい) 明治16(1883)年～昭和32(1957)年
東京芝に生まれる。洋画と日本画を学び、1910年、鍋木清方に入門。「巴水」の号を与えられる。1918年、伊東深水の木版画《近江八景》を見て版画への関心を寄せ、同年、塩原に題材をとった3点の版画作品を発表して以降、1957年に没するまで、風景版画に情熱を燃やし続けた。浮世絵版画の伝統手法を生かしつつも、新しい版画の可能性を見いだし、詩情豊かな風景版画の名作を数多く生み出した。

はじめに

私たちのふるさと島根では、美しい自然の景観、人々の営みから創り出された農山漁村の景観、先人の知恵が生かされた歴史的な景観など、それぞれの地域で特色ある景観が生まれ、形づくられています。

こうした優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り、育むことを目的として、平成3年に制定された「ふるさと島根の景観づくり条例」に基づき、県では様々な取組を行って参りました。

また、平成16年12月には、良好な景観は国民共通の資産であるという基本理念を持つ「景観法」が施行され、住民、事業者、行政が一体となって地域における良好な景観の維持・保全に取り組む必要性や手法等が示されたところであります。

「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献しているまちなみや建造物及び活動等を表彰し、快適で文化の薫り高い島根の景観を形成していくことを目的としておりますが、平成5年8月の創設以来、今回を含め163件が受賞され、多くの県民の皆様に関心を寄せていただいております。

第15回となる今回は、大賞の「島根県立古代出雲歴史博物館」及び「宍道湖夕日スポット」をはじめ、11件の建造物や活動などを表彰いたしました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、審査していただきました委員の皆様や、御応募いただいた方々に、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、島根の魅力ある景観の保全・創造に向けて取り組んで参りますので、御理解と御協力をお願いいたします。



島根県知事
溝口 善兵衛

平成20年2月

選考総評

15回目を迎えた「しまね景観賞」の応募総数は、過去最高の207件であった。これは、ここ数年に比べ約2倍の件数であり、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることが伺える。

選考に当たっては、まず書類審査で29物件を選定し、その後、現地審査と最終審査会を行い、次の11件の建造物や活動などを選定した。

大賞は『島根県立古代出雲歴史博物館』と『宍道湖夕日スポット』である。前者は、大規模な建築物でありながら背後の山々に比べ建物の高さを低く抑えた控え目なものであり、深い歴史性とそこから湧出する調和の精神が巧みに表現されている点が高く評価された。後者は、デザイン、規模、素材などに様々な人の意見を取り入れ、宍道湖と調和した心地よい空間に仕上がっている点が高く評価された。

優秀賞は3件である。「まち・みどり部門」から選ばれた『山王寺の棚田』は、子供たちや都会の学生たちとの交流を積極的に行いながら棚田景観が保全されている点が高く評価された。「土木施設部門」から選ばれた『主要地方道川本波多線邑智大橋』は、上部工の工夫による細身ですっきりとした形が評価された。「民間建築物部門」から選ばれた『蔵々』は、周囲の風情に溶け込みつつ存在感を漂わせているシンプルなデザインが評価された。

奨励賞は5件である。「まち・みどり部門」からは、松江市内でも有数なけやき並木のある『上乃木のけやき通り』と、県内随一の桜並木を有する『木次大橋と周辺河川環境』が選ばれた。「民間建築物部門」からは、温泉津温泉街の古い街並みにしっかりと馴染むように改修された『路庵』が選ばれた。「工作物その他・活動部門」からは、夜の景観に賑わいをもたらそうと地元有志のグループが行っている『津和野の魅力ある夜の景観づくり活動』と、なんじゃもんじゃの保護・普及により景観づくり活動に取り組んでいる『松江城二ノ丸のなんじゃもんじゃと松江洞陀羅会』が選ばれた。

このほか、特別賞として、「公共建築物部門」から、校舎間のデッドスペースが学生の憩いの場として生まれ変わった『松江高専「学びの庭」』が選ばれた。

今後も、さらに多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれ、生活と文化の豊かさを実感できる県土が築かれていくことを期待してやまない。



しまね景観賞審査委員会
委員長

藤岡大拙

大賞

島根県立 古代出雲歴史博物館



現代建築でこれほど “出雲的”を表現した建築物は ないのではないか

深い歴史性と、そこから湧出する調和の精神を出雲的なものの神髄とすれば、この建築物ほどそのことを巧みに表現した例は、現代建築ではないのではないか。大規模な建物でありながら、弥山を中心とする背後の山々に比べ低くおさえてあり、まったく威圧感がない。色彩的にも、透明なガラス張りとコルテン鋼の茶褐色の屋根が、背景の山の緑と際立った調和をみせている。一見、注意していないと通り過ぎるほど目立たない控え目な建物だが、そのことが、いったん入館したとき、内部の豪華さを一段と引き立たせる効果となっている。まさにそここのところが出雲的だ。また、夕闇の北山のシルエットのなかに、内部の照明がガラスごしに淡く光るのは、この上もなく幻想的である。
(藤岡大拙)



所在地／出雲市大社町杵築東
事業主体／島根県
設計者／(株)楨総合計画事務所
施工者／大林組・中筋組・岩成工業特別共同企業体
中筋組・岩成工業特別共同企業体
出雲土建(株)、(株)福島造園、(有)池田造園
概要／〈構造〉鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
〈階数〉地上2階、一部3階、一部地下1階
〈建築面積〉9,444.5㎡(本館：9,051.5㎡、体験
工房：266.9㎡、その他：126.1㎡)
〈延床面積〉11,854.8㎡(本館：11,575.1㎡、
体験工房：155.1㎡、その他：124.6㎡)
完成 平成19年3月

大賞

宍道湖夕日スポット



宍道湖のボリュームとのスケール感や 自然材と光沢材のバランスが心地よい

斐 伊川を源流とする宍道湖。静かで美しい。遠くかすむ山々の紫、萌える草の芽、夕焼けの茜色の空、何時見ても飽きることは無い。宍道湖周辺に暮らす多くの人々は、「今日は夕日が綺麗でしたね」「夕日見ましたか」などと日常の挨拶代わりに交わすほど、親しみ慈しんでいる。

この度、念願の夕日スポットが完成した。時分時ともなるとカメラを持った人達が何処から現れるのか、湧いて出てくる感じ。100人とも200人とも。その光景は異様なほどの賑わい。

私の小学校時代は、泳いだり、藻葉や蜆（しじみ）を採って遊んだものだが、50年も前のことである。ランドスケープとなっているお地蔵さんは何代目であろうか、健在で、スポットのシンボルとして、写真に納まるのは嬉しい。

地域の人々や、松江市デザイン委員会の方、各方面のNPOからの様々なアイデアや提案を国土交通省がまとめられ出来上がったと聞く。宍道湖のボリュームとのスケール感や、自然材と光沢材のバランスも心地よい。横断地下道の明るさ、ゆったりとした空間、テラスのシンプルさ、など細部にわたり暖かいデザインに仕上がっている。

周辺の清掃には多くの企業、団体の方々が名乗りをあげ活動を始められた様子。また、今後コンサートや市民ギャラリーで賑わうことでしょう。
(平本映子)



所在地／松江市袖師町～嫁島町
事業主体／国土交通省中国地方整備局松江国道事務所
NPO法人まちづくりネットワーク島根(ボランティア美化活動)
設計者／(株)竹下技術コンサルタント、(株)三谷設計
施工者／カナツ技建工業(株)、(株)フクダ
概要／工事延長(湖岸側)：約450m
〈歩道〉幅3m、延長760m
〈水際歩道〉幅3m、延長400m
〈夕日テラス〉幅4m、延長110m
〈地下道上屋〉240㎡
完成／平成19年3月

優秀賞

山王寺の棚田



時間が止まっているような情景には
初めて訪れた私も
どこか懐かしさを憶えた

11月の半ば、雲南市大東町の山間にある山王寺地区の棚田展望台に立つ。小さいながらもゴミ一つ見あたらない展望台では、後ろを振り向けば茅葺きの古民家があり、眼下には手入れの行き届いた棚田が広がっている。季節によって様々な表情を見せる棚田も、今は収穫が終わり、静けさが漂う。まるで時間が止まっているようなその落ち着いた情景には、初めて訪れた私もどこか懐かしさを憶えた。

後継者不足や少子高齢化といった深刻な問題を抱える過疎の集落において、「日本の棚田百選」にも認定された魅力ある風景と棚田文化を守り続けることは難しい。そうした中、地域の方々、美土里ネット島根のご協力のもと、子供達が田植えや稲刈りを通して環境について学ぶ「田んぼの学校」や都会の学生が田舎体験をする「ちち☆ばす」などの活動や交流に積極的に取り組んでいる。聞けば、活動に参加した子供達の笑顔が地域の方々の弛まぬ努力のエネルギー源になっているそうだ。

賞に値するこの素晴らしい景観が、また、それを支える多くの方々の守りたいとの思いが、共に後世に受け継がれていくことを願う。
(浅田純作)



所在地／雲南市大東町山王寺
事業主体／山王寺本郷棚田実行委員会(委員数16人)
概要／〈面積〉約19ha
〈水田枚数〉約200枚
〈傾斜度〉約1/9
平成11年7月「日本の棚田百選」に認定されたのを機に、平成15年度から「棚田祭り」、平成18年度から「田んぼの学校」を開催。休耕田の復旧など島根の象徴的な農村景観を守り育てる活動を行う。

優秀賞

主要地方道川本波多線 邑智大橋



彩色を避けた色調が
あたり一面に違和感なく映え
凜として納まっている

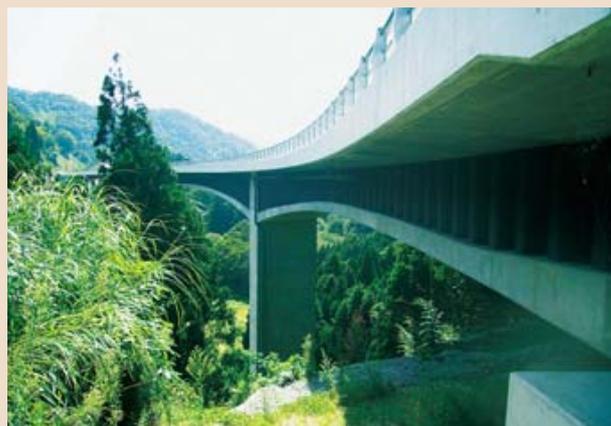
渡れば大田市という邑智郡美郷町北東端の谷に架かる。3年の歳月を費やし、2007年3月に完成したばかりだ。「4径間連続波形鋼板ウェブPCラーメン箱桁橋」と、覚えるにはいささか難儀な形式。県内初の工法という。

特徴は、アコーディオン状の波形鋼板だ。これを用いることにより、橋桁じたいの重さを大幅に軽減。耐震性などを向上させたうえ、下部構造を省略化することもできた。結果、太くて武骨な橋脚を免れ、細身ですっきりとした表情をもつ橋が出来上がったのである。

周りを山また山が囲む。そのなだらかな稜線と、橋が描くゆるやかなカーブ、鋼板部分の弓形とが穏やかな調和をなす。さらには、あえて彩色を避けた欄干の銀色と橋桁の白とが、あたり一面の緑に違和感なく映え、凜として納まってもいる。

この橋の開通によって800mの距離、約3分半の時間が短縮可能になったという。国立公園三瓶山や世界遺産石見銀山への、快適な観光ルートとしても期待が高まる。

(伊藤ユキ子)



所在地／邑智郡美郷町粕渕
事業主体／島根県
設計者／セントラルコンサルタント(株)西日本支社
施工者／オリエンタル建設(株)松江営業所、(株)江ノ川開発
 大社建設(株)、今井産業(株)
概要／〈橋長〉270.0m 〈全幅〉9.7m
 〈橋梁形式〉4径間連続波形鋼板ウェブPCラーメン箱桁橋
完成／平成19年3月

優秀賞

蔵々(くらくら)



さりげなくデザインされた外観は
シンプルではあるが
存在感を漂わせている

松 江市内では橋北地区の東西を貫く幹線道路（城山北公園線）として、通称「大手前通り」と呼ばれている道路の大幅な拡幅を伴う改修工事が進められている。そのため今では沿道沿いの建物が取り壊され、またセットバックして新しく建つ建物も目立ち始めてきた。ここはこの改修計画を機に格調高く歴史ある城下町に相応しい通りになるようにと沿道周辺のまちづくり論議も活発で市民の注目を集めている通りのひとつだ。

飲食店やギャラリーを持つこの建物はその通りの西、大手前広場にほど近い場所に建っている。周辺はお城や、堀川、白壁の建物など城下町の雰囲気の色濃く残しているエリアで、蔵々(くらくら)と名付けられたこの店舗は、その名のとおり白壁といぶし瓦の蔵が二棟並んだような外観イメージで、周囲の風情に自然と溶け込んでいる。それでいて、大きな吹き抜けの開口部や大小様々な窓が配されたその壁との絶妙なバランス、その周りのディテールなどさりげなくデザインされた外観は、何ともシンプルではあるが存在感を漂わせている。

(小草伸春)



所在地／松江市殿町
事業主体／角 輝夫
設計者／(株)寺本建築・都市研究所
施工者／(株)松工建設
概要／〈構造〉木造、一部鉄筋コンクリート造
〈階数〉地上2階、建築面積：75.3㎡
〈延床面積〉139.8㎡
完成／平成19年2月

奨励賞

上乃木のけやき通り



地区住民の強い思いや協力により 松江市内でも有数の ケヤキ並木通りに成長

原 宿表参道とまでは言わないが、松江にも立派なケヤキの並木通りがある。ここ上乃木地区にある市道では毎年秋も終わりに近づく「けやき落ち葉拾い大作戦」と銘打ち、地区自治会の呼びかけで、約1キロにわたって落ち葉集めが繰り広げられるそうだ。すでに地区のイベントとして定着し、花壇作りや花の手入れも行われ、この通りに彩りも備えられている。落ち葉をただ集めて燃やすのではなく腐葉土として再利用され、リサイクル活動として環境保全にも役立ち、温暖化対策の地域活動のモデルとしてグランプリに選ばれたとか。ここまで立派になるには約30年の年月を経ていると聞く。おそらくその間には落ち葉の始末に困るからとか、電線の妨げになるからとか、歩くのにじゃまになるとかの理由で、伐採の危機に直面する場面も幾度となくあったと思われるが、このように松江市内でも有数のケヤキ並木通りに成長したのは、地区住民の方々などの強い思いや、協力があったからこそと思う次第だ。将来電線の地中化が実現し、ショップや家並みをもっと整備されれば、さらに素敵な通りになること請け合いだ。
(小草伸春)



所在地／松江市上乃木
事業主体／西ノ原自治会、上乃木2区自治会連合会
概要／〈けやき並木〉延長：約1km、本数：約80本
平成11年より落ち葉拾いを実施、参加者は約500人（上乃木2区自治会連合会）
平成16年より花壇づくりを実施、参加者は約25人（西ノ原自治会）

奨励賞

木次大橋と 周辺河川環境



近くで見るとその迫力に感動し
遠くから見ると淡いピンクの花霞と
なって人々を酔わせる

斐 伊川の中流に位置する桜並木。
花咲く時期、斐伊川堤防に桜のトンネルが2キロに渡っ
て続くその光景は、素晴らしいの一語に盡きる。

近くで見るとその迫力に感動し、遠くから見ると淡いピンクの花霞となって人々を酔わせる。

この美しさが保たれているのは、桜守や地域の人達の努力があつてのことである。この並木は明治の頃から守られ、洪水で一時荒れ果てたが、人々の努力と熱意で徐々に復活し今日に至っている。

スサノオノ命の剣をイメージして造られた木次大橋。この橋は、地域のシンボルとなって尾道松江線と木次中心地を結ぶ架け橋ともなっている。夜になるとブルーの灯がとまり、一段と美しく幻想的な光景を現出させる。

その上流に架かる潜水橋（沈下橋）は、無機質なコンクリートではあるが、周辺の人達の近道で、風景のアクセントになっている。
(山谷裕子)



所在地／雲南市木次町里方～下熊谷
事業主体／雲南市
概要／〈木次大橋〉2径間連続斜張橋、延長：162.8m
〈潜水橋（下熊谷橋）〉延長：160.1m
〈斐伊川堤防桜並木〉延長：約2km、本数：約800本

奨励賞

路庵 (ろあん)



古い町並みにしっかりと馴染み 棧入りのガラス戸や2階の手摺りは 郷愁を呼ぶ

日 本で唯一の、世界遺産となった温泉街のなかに立つ。赤瓦の家々が肩寄せあうように連なる谷筋だ。重要伝統的建造物群保存地区に選定されたのが2004年春のこと。その翌年に保存修理事業第1号として誕生したのがダイニングバー「路庵(ろあん)」だった。

もともとは明治中期に建てられた呉服屋だったと聞く。改修にあたっては古材をできるだけ使い、屋根は赤瓦のまぜ葺きにすることなどが義務づけられたそう。おかげで、古い町並みにしっかりと馴染む。棧入りのガラス戸や2階の手摺りは郷愁を呼ぶほどだ。電気計量器を囲う木枠や錆色の雨どいなどにも心配りのほどがうかがえる。

ここが刺激剤となったか、その後も保存修理事業は相次いでいるという。江戸末期から昭和まで、建築年代もまちまちな、寺や神社、温泉浴場、旅館、商家、民家が混在する小路。ともすれば、ちぐはぐな景観になりがちのところ、路庵はひとつの方向性を示したように思えてならない。温泉津焼きの水瓶「はんど」が似合う町並みに、という道筋を。長い眠りから覚めたこの町が数十年後、どんな景観になるのやら、見守っていきたいと思っている。

(伊藤ユキ子)



所在地／大田市温泉津町温泉津
 事業主体／(有)小川商店
 設計者／ARCHIT-LINE Design Office
 施工者／茅島工務店
 概要／大田市伝統的建造物群保存地区保存事業（温泉津地区）保存修理第1号
 <構造>木造、階数：地上2階
 <建築面積>85.13㎡
 <延床面積>143.21㎡（1階：85.13㎡、2階：58.08㎡）
 完成／平成17年3月

奨励賞

松江城二ノ丸の なんじゃもんじゃと松江洞陀羅会



風薫る五月に 繊細で壮観な風景が さらに広がっていくことを願う

五月の初めごろ、松江城二ノ丸に雪が降り積もったかのような純白の花を咲かせる木がある。観る人々を魅了してやまないこの木は、モクセイ科の落葉樹「ヒトツバタゴ」であり「なんじゃもんじゃ」とも呼ばれている。人々は毎年この時期が来るのを楽しみに待っており、この地を訪れた観光客は真っ先に駆け寄り思わず歓声をあげる。

松江城二ノ丸の「なんじゃもんじゃ」は、昭和15年松江市出身の故杉坂治氏が、現在の韓国光州市で自生樹から採取育成した苗木を故郷松江市へ寄贈したものである。

松江洞陀羅会の会員が、この「なんじゃもんじゃ」の由来を後世に長く伝え、保護・普及するために平成10年から松江市内で苗場を確保し、丹誠を込めて接ぎ木苗の生産と育成を行い、公共施設への寄贈や一般配布を続けている。これまでの総数は、1,600本にも及んでいる。

市内各所で、風薫る五月に真っ白い雪に覆われたような繊細で壮観な風景がさらに広がっていくことを願う。

(神長耕二)



所在地／松江市殿町
事業主体／松江洞陀羅会(会員数:46名)
概要／松江城二ノ丸のなんじゃもんじゃ
本数:7本、樹齢:約70年
〈松江洞陀羅会〉
平成11年よりなんじゃもんじゃの苗木の生産を行い、平成14年から公共施設への寄贈、一般への配布を行う。

奨励賞

津和野の魅力ある夜の景観づくり活動



和やかな雰囲気の中 世代を超えた会話が弾み 町民と観光客の交流が深まる

津 和野町中心部のメインストリート、「殿町通り」と「本町・祇園丁通り」は、近年、住民の意見を踏まえた整備によって景観上も安全面でも歩行者にとって快適な石畳の道に変身し、町内外の多くの人々に親しまれている。今回選ばれたこの活動は、上記二つの通りを舞台に地元有志による「TSP（津和野スクリーンプロジェクト）」として2004年以来展開されているものである。

寂しくなりがちな夜の景観に賑わいをもたらそうと始められたもので、住民の協力のもと、通りに面した白壁をスクリーンに見立てた古い写真の上映会や、和紙製の灯籠を並べての通りのライトアップなどが実施されている。上映会は年に6回程度の開催であるが、オープンカフェの開設や琴の演奏等が行なわれることもあり、和やかな雰囲気の中、昔の津和野の生活や行事を伝える映像を見ながら世代を超えた会話が弾み、町民と観光客の交流も深まるという。

昨今、青春時代の旅を懐かしんで津和野を再訪するかつての「アンノン族」も増えていると聞く。人々の心をほっと癒してくれる津和野の魅力がいつそう高まるような、輝きとあたたかみのある活動を今後も期待したい。
(八田典子)



所在地／鹿足郡津和野町後田
事業主体／あれとい屋(会員数:40名)
概要／平成16年から人通りの少ない夜の通りに新たな賑わいをもたらそうと、蔵の白壁に写真や動画を映し出し、城下町の魅力を再発見する「津和野スクリーンプロジェクト」やろうそくの明かりによる「和紙あんどん」を並べて夜の城下町の幻想的な風情を楽しんでもらう活動などを行う。

特別賞

松江高専「学びの庭」



穏やかな曲線をダイナミックに用いた スケール感が気持ちよい 活気に満ちたオープンスペース

学びの庭。何ともいえない懐かしい響き。松江高専は松江市街から佐太神社に向かって車で10分、小高い丘に昭和39年に開校された。

高度成長期のはしりで、効率と機能重視の建物であった。だが当時は高専というネーミングと白い建物は珍しく、新しい風を感じていた。約40年前のことである。

今回、何十年ぶりに訪ねた。穏やかな曲線をダイナミックに用いたスケール感がとても気持ちよく、活気に満ちたオープンスペースがあった。モダンで建物が空気や光を吸って生きているかのような印象を受けた。

「学びの庭」は、学生が足を踏み入れることの無い校舎隣棟空間の緑地を利用したもので、採光屋根を架け、廊下の延長として、また、全天候型外部空間としても使えるよう改修された。天候に恵まれない山陰にあって、新しいエネルギー空間として、成功したのではなからうか。

木製のステージはバリアフリーに、植栽やベンチの設置、学生の憩いの場として、また、創造性を育む制作空間として生まれ変わった。

これからの学校建築のあり様を示唆した好例ではなからうか。教授と学生のコンセンサスによる新しい高専の顔が生まれ、若者たちの活気に満ちた表情がそこにあった。
(平本映子)



所在地／松江市西生馬町
 事業主体／独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校
 設計者／(株)NTTファシリティーズ中国支店
 施工者／(株)鴻池組山陰支店
 概要／〈アトリウム〉構造：鉄骨造張弦梁構造
 梁間：20.0m、面積 807.12㎡
 完成／平成16年3月



大賞

① 島根県立古代出雲歴史博物館

事業主体／島根県

② 宍道湖夕日スポット

事業主体／国土交通省中国地方整備局松江国道事務所
NPO法人まちづくりネットワーク島根
(ボランティア美化活動)

優秀賞

まち・みどり部門

③ 山王寺の棚田 事業主体／山王寺本郷棚田実行委員会

土木施設部門

④ 主要地方道川本波多線邑智大橋 事業主体／島根県

民間建築物部門

⑤ 蔵々(くらくら) 事業主体／角 輝夫

奨励賞

まち・みどり部門

⑥ 上乃木のけやき通り 事業主体／西ノ原自治会、上乃木2区自治会連合会

まち・みどり部門

⑦ 木次大橋と周辺河川環境 事業主体／雲南市

民間建築物部門

⑧ 路庵(ろあん) 事業主体／(有)小川商店

工作物その他・活動部門

⑨ 松江城二ノ丸のなんじゃもんじゃと松江洞陀羅会

事業主体／松江洞陀羅会

工作物その他・活動部門

⑩ 津和野の魅力ある夜の景観づくり活動 事業主体／あれとい屋

特別賞

公共建築物部門

⑪ 松江高専「学びの庭」 事業主体／独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校

第15回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

審査委員

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------|------------------------------|
| 浅田 純作 | 独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校准教授 | 平本 映子 | 松江生活デザイン研究所主宰 |
| 伊藤ユキ子 | 紀行作家 | ○藤岡 大拙 | 島根県立島根女子短期大学名誉教授 |
| 小草 伸春 | (社)島根県建築設計事務所協会会長 | 布野 修司 | 公立大学法人
滋賀県立大学大学院環境科学研究科教授 |
| 神長 耕二 | 島根県土木部長 | 山谷 裕子 | 画家 |
| 八田 典子 | 公立大学法人
島根県立大学総合政策学部教授 | | |

敬称略／50音順 ○印は審査委員長

審査経過

募集期間	平成19年7月2日(月)～9月3日(月)
募集結果	応募総数……207件、応募物件数…184件
第1次審査 (平成19年9月12日～9月28日)	応募書類、写真を基に第2次審査の対象となる29物件を選出。
第2次審査 (平成19年11月14日・15日)	選出された29物件について現地審査及び最終審査会を行い、11物件を選定。
表彰式 (平成20年2月13日)	受賞物件の事業主体、設計者、施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈。

第15回

しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

部 門	名 称	所 在 地
まち・みどり	※山王寺の棚田	雲南市大東町山王寺
	※上乃木のけやき通り	松江市上乃木
	堀川に親しむ筋違橋と柵	松江市内中原町
	※木次大橋と周辺河川環境	雲南市木次町里方～下熊谷
	江津市波子町「商家の街並みと赤瓦景観」	江津市波子町
土木施設	※宍道湖夕日スポット	松江市袖師町～嫁島町
	輝日谷川総合流域防災事業	大田市波根町
	小伊津なぎさ公園の落石対策施設	出雲市小伊津町
	※主要地方道川本波多線邑智大橋	邑智郡美郷町粕渚
	萩津和野線 本町・祇園丁通り	鹿足郡津和野町後田
公共建築物	御便殿	浜田市殿町
	※島根県立古代出雲歴史博物館	出雲市大社町杵築東
	安来節演芸館	安来市古川町
	斐川町環境学習センター	簸川郡斐川町出西
	※松江高専「学びの庭」	松江市西生馬町
	美保関町役場（現松江市美保関支所）	松江市美保関町下宇部尾
民間建築物	C a f e N o V I	八束郡東出雲町揖屋町
	※蔵々（くらくら）	松江市殿町
	出雲キルト美術館	簸川郡斐川町福富
	※路庵（ろあん）	大田市温泉津町温泉津
個人住宅	岡崎邸	益田市有明町
	大庭の家	松江市大庭町
	かぶき邸	松江市八雲町平原
	立花邸	出雲市大社町杵築東
工作物その他・活動	大森地区「鶴の石」	大田市大森町
	※松江城二ノ丸のなんじゃもんじゃと松江洞陀羅会	松江市殿町
	山陰合同銀行安来支店の記念碑	安来市安来町
	※津和野の魅力ある夜の景観づくり活動	鹿足郡津和野町後田
	意東海岸	八束郡東出雲町下意東

受付順 ※は受賞物件



シマネスク・島根

平成20年2月

企画・編集／島根県土木部都市計画課

